江戸時代初期の豪商

淀屋の業績

【大坂三大市場関係】

①正しい相場のための米市設立と運営

（全国の米相場をたて、大坂を天下の台所といわれるまでに）

②青物市の設立と運営

（途絶えていた市を自宅用地内に設立し、農産物の需給に寄与）

③靭海産物市場の設立と運営

（自己の開発した浜に干物・塩魚・鰹節などの市を設立し町民の生活に寄与）

【土木建設関係】

④淀川の大改修

（太閤堤や文禄堤の改修と身代を投げ打っての再改修）

⑤中之島の開拓と淀屋橋の架橋

（荒れ地の開発で、江戸時代は蔵屋敷、現在はビジネスの中心地に）

⑥葭島・南堀川の開発

（未開拓の地を開発し、商業地域として活用）

【社会貢献】

⑦行政への参画と地域への貢献

（市民自治の大坂で、総年寄・年寄として、また船場の代表格として）

⑧神社仏閣への多大な寄進

（神仏への信仰心から、歴代にわたり神社寺院に膨大な寄進を）

【海運・貿易・金融】

⑨北方交易の先鞭

（北風彦太郎と加賀米の回漕から北前航路の先鞭をつける）

⑩糸割符の導入

（認められていなかった生糸の輸入権を大坂にもたらせた）

⑪困窮大名に融資

（幕府の施策により困窮した各藩に他の商人のしない条件での融資を）

淀屋研究会

表1:淀屋系図

淀屋宗家＝淀屋橋家 （大坂・北浜）	淀屋清兵衛家 （大坂・北浜）	牧田家 （鳥取・倉吉）
初代　岡本与三郎　　常安　（1557？－1622）		
2代　淀屋三郎右衛門言当　（1576－1643）		
3代　淀屋三郎右衛門箇斎　（1606－1648）		
4代　淀屋三郎右衛門重当　（1634－1697）		初代　牧田仁右衛門
5代　淀屋三郎右衛門広当　（1683－1717？）		2代　牧田孫三郎　　季昌
＊2代目以下は辰五郎・个庵を呼称		3代　牧田五郎右衛門寿弘
		4代　牧田五郎右衛門善与
	初代　淀屋清兵衛	5代　牧田孝四郎　成庸
	2代　淀屋清兵衛	6代　牧田仁右衛門庸信
	3代　淀屋清兵衛	7代　牧田仁右衛門庸定
	4代　淀屋清兵衛	8代　牧田孫三郎　庸業
	5代　淀屋清兵衛	
	（1846？－1895）	（1846－1895）

淀屋分家は4家　・常安町家　・大川町家　・斉藤町家　・大豆葉町家

淀屋常安の息子　・三郎右衛門言当（个庵）・・2代目　娘婿：箇斎　3代目

・五郎右衛門（道雲）　・・銀座役人　息子：箇斎　↑

・市兵衛　・・八幡滝本坊に入る

・乗円　・・八幡萩の坊に入る（画家）

・仙甫　・・淀住む？・佐太天神宮の連歌に名前有

江戸時代初期の豪商「淀屋」の墓碑

淀屋は、中之島を開拓するとともに屋敷の前で米市を開き、淀屋橋を架けるなど「天下の台所」大坂の発展に大きく貢献した。

五代目・淀屋辰五郎(廣當)の時、町人に過ぎたる豪奢を理由として幕府から闕所処分（全財産没収、所払）を受けたが、その後の恩赦で八幡の田地が返還され、そこに住んだ。八幡柴座の町なかに、淀屋の屋敷跡と伝える石碑が存在する。

淀屋は、代々八幡神人格を有し、神應寺に対しても扁額を寄進する等深い繋がりがあったことがうかがえる。

墓碑（向かって右より）

・三代目箇斎の父　為江樹道雲禅定門

（言當の弟　道雲）　寛永十一年（一六三四年）季春十一日

・二代目言當　玄个庵祖源道列居士覚霊

寛永二十年（一六四三年）十二月初五日

・三代目箇斎　性源个齋居士

慶安元年（一六四八年）七月十二日

・五代目廣當　潜龍軒咄哉个菴居士

享保二年（一七一七年）極月二十二日

平成二十三年（二〇一一年）十一月　神應寺

淀屋研究会